○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

情報交換「市」

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の“情報交換「市」”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」“伝言板”

地域の方のありがたさ

栃木市立合戦場小学校 教諭 柏崎　友洋

総合的な学習の時間に「地域の人たちと自分たちがどのような絆でつながっているか調べてみよう」という活動をしたことがありました。子どもたちはおはやし保存会の方や図書館ボランティアの方にお話を伺い、調べ学習を進めていました。その中で地域の安全ボランティアの方をインタビューした子が、
「先生、ボランティアの人は違う学校にお孫さんが通っているんだって」
と言うのです。後日、その方にお話を伺ったところ、子どもや孫は通っていないけれど、自分の住んでいる地域のどもたちの安全を守りたいという考えでボランティアに取り組んでいるとのことでした。その方は毎日朝、夕と登下校を見守ってくださるので、本当に感謝しなくてはいけないと改めて思いました。これからも地域の方とのつながりを大切にし、子どもたちと学習していきたいと思います。

地域連携教員研修に参加して

野木町立野木中学校 教諭 秋元　邦夫

平成26年 5月13日（火）に、第１回地域連携教員の研修に参加し、次のようなことを学び実践しました。

１つ目は、学校は、地域と連携して様々な取組を行ってきましたが、その取組を見直す時機にきているのではないかということです。例えば、学校開放をして、授業参観をしていますが、合唱コンクールと授業参観をタイアップして行事を持つようにするなどです。また、評議員の方や地域の方に審査員をお願いし地域と連携するなどのアイデアを考えることです。

２つ目は、地域連携教員として、具体的に何かを始めるということです。そこで、全体計画や年間計画を作成し、学校と地域の結びつきを洗い出すことを１学期に行いました。

最後に、宇都宮大学教授の廣瀬先生の言葉がとても印象に残りました。「よい学校は、よい地域に存在する」「地域に必要な学校」を目指すということです。生き残りを懸けて地域の方から愛されるように「コーディネート」＝「つなぐ」を目標に役割を果たしていきたいです。

地域との交流・異年齢の人との交流

小山市立絹中学校 教諭 須釜　健作

絹中学校には、「ふれあい広場」という他校には見られない伝統行事があります。この活動は総合的な学習の時間を使い、「中学生と地域の高齢者との交流を深める」活動を通して、道徳教育の実践、コミュニケーション能力の育成をねらいとしているものです。今年で28年目となり大変長く続いている活動で、地域の方々と交流し社会性を育むことにより、地域社会への貢献や自分自身の将来を考えさせる機会になることも目指しています。

毎年の行事でもあるので、生徒はもちろんのこと高齢者の方も楽しみにしています。活動内容は、輪投げやボーリング、お手玉づくり、団子作り、合唱など異年齢間でできることを地域別に集まり、地区理事の役員さんや高齢者の方と打ち合わせをして決めました。地域を慈しむ心が毎年受け継がれていく行事であると自負しています。

情報交換「市」もすっかり、「ネットワーク」の定番となりました。社会教育主事講習で一緒だったあの人が、一緒に勤務したあの人等が、「現在」の様子を皆さんに語ります。ぜひ、これからのふれあい学習の一助に、そして、紙上同窓会的意味合いもあります。今回の情報交換「市」も、ぜひ、お楽しみください。

情報交換「市」

○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の
“情報交換「市」”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」
“伝言板”

宇宙人からのメッセージ

下野市立南河内第二中学校　教諭　羽鳥広康

　かつて、高原山少年自然の家に「宇宙人からのメッセージ」という活動がありました。私はこれを参考に、雨天時に施設内で実施できる活動を考え、「暗号解読ゲーム」として今までに数回実施してきました。

　さて、今年異動先で、第１学年主任となりました。１年生には「なす高原自然の家」での宿泊学習があります。茶臼岳登山、沼原湿原ハイキング等の活動計画を立てましたが、雨天プログラムも準備しなければなりません。しかし、頼みの暗号解読ゲームは異動等で所在不明となっていました。しかたなく「新」暗号解読ゲームの作成となりましたが、できあがったのは宿泊学習直前でした。そして、宿泊学習の２日目は雨、予定通り？新暗号解読ゲームは実施されたのでした。

　この活動に必要なものは、なす高原自然の家の大輪指導主事に託してあります。

「地域とのつながりの中で生まれたもの」

県立小山城南高等学校　教諭　作佐部　京子

　私は平成21年度茨城大学にて社会教育主事講習を受講しました。その期間、多くの先生方との出会いや、同期の先生方とのふれあいの中で人との「結びつき」や「縁」ということの大切さを知り、そこから一つのものを作り上げていく喜びを知ることができました。今現在勤務している小山城南高校は、地域とのつながり、連携協力が非常に盛んな学校です。総合学科という特色を活かした専門科目による保育園・幼稚園との連携授業や、各部活動の地域イベントへの参加、合同練習会、白鷗大学との高大連携事業など、地域との連携の中から、地域に貢献できる人材の育成を目指し、取り組んでいます。私自身も書道部の顧問として、昨年度から、小山市「御殿まつり」で書道パフォーマンスを披露する形で地域と関わりをもっています。また、「御殿まつり」への参加がきっかけとなり、新たな「縁」が生まれ、小山テレビでも同様な機会をいただくことができました。

　これからも人とのつながりから生まれる「縁・ネットワーク」を大切に、出来ることから取り組んでいきたいと思います。

六年生になって

栃木県教育委員会事務局　生涯学習課
副主幹　星　育夫

　社会教育のフィールドで仕事をして５年が経ちました。これまでは、人権教育や家庭教育を主に担当し、今年は、社会教育関係の会議や団体、青少年教育を担当しています。どの分野を担当しても、自分が学校現場で目を向けられず、多くの大切なことに気づけなかったことを反省させられます。日々の教育活動は、全て人権教育につながっていることや、学校教育の充実のためには、教育の基盤である家庭教育へのアプローチが大切であることなど、学校を、家庭や社会とのつながりを通して振り返ることで、その真の意味に気づかされました。もう一つ改めて気づいたことは、「子どもはみんなで育てる」ということです。地域社会には、子どもたちの健やかな成長を願う方が本当に多くいること、様々な取組が行われていることに驚かされます。しかし、学校現場にいた時は、それに気づく視野の広さも余裕もなかった気がします。ぜひ、皆さんには、「子どもをみんなで育てる」ことのよさや、困った時には、学校を応援してくれる方たちがいることに目を向けていただきたいと思います。現在、宿泊交流体験を通して、不登校傾向の児童生徒のエンパワーメントを図る「ふれあいキャンプ」の準備を進めています。このような活動が、子どもたちや先生たちの支えになることを願いながら…。